



静岡県の幼児教育の質の向上を目指して

# わっ！びよん通信

発行・編集 静岡県幼児教育センター TEL054-221-3287 FAX054-221-3558

## 令和5年度幼児教育 GOOD DESIGN AWARD

当幼児教育センターでは、令和3年度から「GOOD DESIGN AWARD」を実施しています。市町の幼児教育推進に係る取組の中から、「全ての施設種・園種を含めた体制づくり」「小学校教育との円滑な接続の推進」「保育者のキャリアに応じた研修体系構築」「ICT活用による園務環境の整備」「その他今日的な課題への対応」の категорияにおける多様な取組を選定し、その内容を広報することにより、好事例の普及と市町間の連携を促進し、市町の幼児教育推進体制構築を支援することを目的としています。

2月2日の就学前教育推進協議会で下記の市町の授賞を決定し、2月16日の幼児教育アドバイザー研修会の折、取組の状況を報告いたしました。取組の詳細は、幼児教育センターWEBサイトに掲載してあります。

なお、「GOOD DESIGN AWARD」は、本年度をもって終了しますが、今後は、市町の特色ある取組は「わっ！びよん通信」で知らせていく予定です。

### 令和5年度受賞市町

- ☆全ての施設種・園種を含めた体制づくり 掛川市
- ☆小学校教育との円滑な接続の推進 長泉町
- ☆保育者のキャリアに応じた研修体系構築 磐田市
- ☆今日的な課題(就学支援・特別支援教育)への対応 富士宮市



### 「全ての施設種・園種を含めた体制づくり」について ○受賞市町：掛川市

#### 《授賞理由》

掛川市では、市内の乳幼児保育・教育に関わる全ての施設に参加を呼びかけ、学識関係者や行政機関と共に、平成28年12月に「かけがわ乳幼児教育未来学会」を設立しました。規模や形態等の違いを超えて、「協働」の理念でつながり、「質の高い保育・教育」を目指しています。令和5年度の加入者数は659人、加入率94%で、公私立、施設類型問わず、ほとんどの施設の関係者が加入している点は大変評価できます。

本学会は「園経営研究部」「遊び研究部」「発達支援研究部」等6つの研究部があり、保育や教育に関する幅広い分野で、実践に基づいた研究が進められ、「質の高い保育・教育」の実現に貢献していることは、他市町の体制作りの参考になります。

**「小学校教育との円滑な接続の推進」について ○受賞市町：長泉町****《授賞理由》**

長泉町は令和2年に教育アドバイザー(元学校長)が中心となり園と小学校の連携・接続に本格的に着手しました。アドバイザーが公立園を訪問し、小学校への円滑な接続という視点から園の職員と協議するとともに、園と小学校の教員が一同に会する会議(通称フラット会議)を年3回実施しています。令和3年からは希望する私立園も参加しています。また、令和4年度には保育アドバイザー(元園長)も任用され、双方の教育・保育について確実に指導助言できる体制を整えるとともに、円滑な接続をより意識した園のランドデザイン、小学校のスタートカリキュラムの改善を図りました。フラット会議は当初は双方の教員の関係作りに主眼を置いていましたが、令和5年には、保育・授業参観を位置づけ、子どもの実際の姿をもとに、より具体的な教育内容に踏み込んだ協議ができるように改善しました。このように徐々に園と小学校の連携・接続の取組が充実してきていることは、大いに他市町の参考になります。

**「保育者のキャリアに応じた研修体系構築」について ○受賞市町：磐田市****《授賞理由》**

磐田市では、教育公務員特例法の一部改正に伴い、磐田市幼稚園等教員育成指標、磐田市教育・保育課程(基準)、教員研修計画の3つを同時に見直しました。育成指標については、磐田市独自の視点を加えて改訂し、改訂内容に合う保育研修を実施しています。教育・保育課程(基準)は、「架け橋期の教育の充実」「多様性に配慮したインクルーシブ教育の推進」の視点で見直しを図りました。研修計画においては、ステップアップ研修、ミドルリーダー研修、ライン主任研修など、キャリアごとの研修の内容を充実させました。その結果、保育者の資質・能力の向上と人材育成において、若手、中堅、ベテランのそれぞれのキャリアステージで成果が上がっています。特に、特別支援教育や小学校との円滑な接続の分野で保育者の専門性が高まっています。指標に基づく研修計画の着実な実施は大いに他市町の参考になります。

**今日的な課題(就学支援・特別支援教育)への対応について ○受賞市町：富士宮市****《授賞理由》**

富士宮市には公私立・施設類型問わず全ての施設と連携し、小学校につながる就学支援及び特別支援教育を行っています。就学支援については、各園・各学校・関係施設の就学支援担当者が一同に会する会議を通して、一人一人の教育的ニーズに応じた就学支援について共通理解を図っています。また、特別支援教育相談員が、年中児、年長児の2年間、全施設を巡回し、就学支援に向けての相談をするとともに、保育についても助言し、幼児期の支援や対応を小学校につなげています。さらに、小学校入学後に必要となる支援や配慮について保護者とともに考え、適切な支援や環境を整えるため、就学予定園児の保護者に就学支援シートの作成を依頼し、その情報を小学校につなぐ取組を長く続けています。これらの取組は、就学支援や特別支援教育を視点にして、全ての施設種・園種を含めた体制づくりや小学校教育との円滑な接続の推進にもつながる取組であり、高く評価できます。